

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月20日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0173600933		
法人名	社会福祉法人 ふれんど		
事業所名	グループホーム のどか		
所在地	苫小牧市明徳町4丁目4番17号 (電話) 0144-67-8102		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成19年 12月19日	評価確定日	平成20年1月29日

## 【情報提供票より】(19年12月 1日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 4月 1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17人	常勤14人, 非常勤 3人,	常勤換算8.2人

## (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	1階建ての	～1階部分	

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	平均14,500円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	○有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 450 円
	夕食	550 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

## (4) 利用者の概要(12月19日現在)

利用者人数	18名	男性 1名	女性 17名
要介護1	5名	要介護2	2名
要介護3	6名	要介護4	4名
要介護5	1名	要支援2	
年齢	平均 84歳	最低 73歳	最高 94歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 道央佐藤病院
---------	-------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは、高齢者福祉総合施設の一端を担うもので、系列の医療機関を背景とした手厚い支援体制が整っています。ホームの内部も、系列のグループホームで培われた設備の改良が随所に見られるなどの姿勢は評価されます。例えば、居間と食堂との間に設置された厨房は、両サイドを見ることができ、利用者への温かい見守りに適しており、若干手狭になった居間も利用者間同士、またスタッフとのふれあいに適していると思慮いたします。2つのユニットを結ぶ回廊の中央にあるスタッフルームは、両ユニットの利用者が行き交い、双方の情報を共有できるよう配慮がされています。開設以来、1年半を経過していますが、市が計画する地域の高齢者福祉対策の中核として、今後益々期待されるホームであるとの印象を受けました。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>昨年の外部評価の中では、一部検討中の改善案件もありますが、スタッフ間ではできることから改善の着手が行なわれています。家族への便りも創刊され今後の定期的な継続も検討されています。また、食事も利用者と一緒に楽しい光景も見られました。市との係わりでは、連絡会を通じた積極的な連携が持たれるなどの</p>
	<p>今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者は、外部評価の項目をスタッフに知らせて、項目別の考察と検討をして作成されており、取組みへの強い姿勢が見られました。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、ほぼ定期的で開催され、町内会など地域の住民の温かな理解と協力を得ています。ホームからの現況報告に対しての質問、包括支援センターからの適切なアドバイスなど活発な意見交換が見られます。今後は自己評価及び外部評価を公開して、その取組み状況を知って頂くなど、モニター役を担ってもらうよう取組みを期待します。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族が訪問した際に、努めて声掛けによる意見、要望、また苦情の収集にあたっています。意見などがあつた場合は必ず連絡ノートに記載し、スタッフ全体で共有できるようにしており、ホーム運営の改善、スタッフのスキルの向上に役立っています。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>開設1年半ですが、地域との交流は益々裾野の広がりを見せています。幼稚園児の訪問交流は利用者の楽しみのひとつです。また、小学校の学芸会、町内の祭りへの参加で楽しいひと時を過ごすなど、地域と連携を取りながら利用者の豊かな暮らしへの取組みが行なわれており、今後も大いに期待されます。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念及びケア理念に「地域の方々と連携して・・・」と謳われ、利用者が地域のなかでその人らしく暮らせるようしっかりとした姿勢が見られます。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ケア理念は、スタッフ間で意見を出し合いながら作られたもので、ネームカードの裏面に書かれているケア理念を毎朝の申し送り時には復唱するなど、姿勢を正しての勤務を心掛けています。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	併設のケアハウスにこられる方々との交流は盛んに続けられています。また、近くの小学校の学芸会、町内の文化祭への参加、幼稚園児との交流など利用者にとっても楽しみと なっています。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の外部評価に関しては、スタッフ間で改善に向けた話し合いを行っており、家族への報告及び食事の際の一緒の食事、また、市との係わりなど改善を見ることができました。今回の自己評価についても、スタッフ間で項目別に考察のうえ作るなど、評価に対する理解と活用は深まりを見せています。		

苫小牧市 グループホーム のどか

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の内容は、ホームの現況紹介、行事の内容説明や防災訓練まで幅広い協議がされていますが、ホームのサービス向上を目指した自己評価並びに外部評価の内容検討までは至っていないようです。	○	自己評価及び外部評価の全てを公表して、改善に向けた取り組み状況を説明するなど改善経過のモニター役を担ってもらうことが望ましく今後の取り組みに期待します。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	グループホーム協議会を通して、市の担当者との係わりが増えてきております。研修会には市から説明者を派遣してもらうなど、ホームのサービスの質の向上を図る点で理解を深めています。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	訪問頻度の高い家族もありますが、なかなか訪問が難しい家族もあり、報告などは電話や郵送に頼るようです。ホームの状況を知らせる「のどかだより」も発刊間もなく、内容的にも十分とはいえないようです。	○	訪問時、また電話による状況報告をされていますが、「のどかだより」の定期的発刊、ホームの行事だけではなく利用者一人ひとりの状況報告、スタッフ紹介、また、ケア理念の啓発、できれば写真などを掲載して家族が安心をして頂くような取り組みを期待します。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が訪問した際には、努めて声掛けを行ない意見や要望をうかがう様にしています。その際に受けた意見や要望は、連絡ノートに記載してスタッフ間を共有を図るとともに、ミーティングで協議し改善などの対応に努めています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開所当時は離職などが多い時期がありましたが、現在では安定し、僅かに法人内での異動がある程度です。異動があった際にはできるだけ利用者のダメージを少なくするよう、一定の引継ぎ期間を設けて馴染みの関係を保てるよう工夫がされています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内には、専門のエキスパートがおり、職場内の研修は専門的な内容で盛んに行なわれています。外部研修もスタッフの経験に合わせた参加受講を積極的に推奨するなど、スタッフのスキルアップには配慮がされています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各協議会や連絡会に参加してほかのグループホームの管理者、スタッフと意見交換をするなど交流が行なわれており、ほかの事業所で良くできている点などを持ち帰り、サービスの向上につなげています。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	系列の医療法人が行なうデイケア、デイサービス、ケアハウスからの利用者が多くいるため、事前の情報は比較的豊富であり、家族からの情報も得やすく、それらを把握しながら馴染みのサービスが提供されています。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	スタッフは、利用者の話す言葉を良く聞きながら頷き、また、忘れかけた言葉を優しく誘導するなど、ゆったりとした時間をともに過ごしあう関係ができています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや意向の把握は毎日の暮らしでの、見守りや話し合いのなかから感じ取るようにしています。また、把握の困難な場合は家族に聞くなどの協力を仰ぐ場面もあります。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族が訪問した際には、家族、ケアマネジャー、スタッフを交えたミニカンファレンスを行ない、利用者本位のケアプラン作成を行なっています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	通常の見直しは3ヵ月を一応の期間として行なわれるほか、利用者の状況に応じては適時見直しが行なわれています。ケアプランの見直しには、利用者の状況が記載された各シートが用いられますが、記載の内容はとても細やかに、かつ、適切に記録され見直しに反映されていました。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者が掛り付け医への通院は、原則家族が行なうこととなっていますが、現状では家族の状況や要望により、ホーム車による送迎が行なわれています。また、併設のケアハウスやデイサービスの利用者とは、プロムナードや交流スペースを利用した交流がしばしば行なわれています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームには週1回の嘱託医の往診があるほか、ホームには2名の准看護師、併設の施設全体にも看護師、准看護師を擁して24時間対応となっており、利用者及び家族の安心感を得ています。また、系列病院への定期バスが運行されており、通院の便宜も図られています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者が入居に際しては、家族に対して重度化やターミナルのあり方について説明し、看取りに関する指針の同意書を得ています。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	馴染みの間柄とはいえ、利用者に対する言葉掛けは、一人ひとりのプライドに気配りしながら丁寧に行なうよう心掛けています。また、書類などの記録の放置、また記載にも十分配慮しています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本人の意向を大切に、その人らしい暮らしができるよう支援しています。買物、散歩、入浴など本人のペースに合わせたゆったりとした日々が過ごせるよう配慮がされています。化粧でおしゃれをしている利用者も多く見られました。		

苫小牧市 グループホーム のどか

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	弁当持参のスタッフもいますが、利用者の中に入り食事介助と楽しい会話をしながら一緒に食事を取っていました。好みにより特別に作られたソーメンを美味しく食べる利用者、外国旅行の話、ご主人が教育者で転勤が多かった話など色々な話が飛び交う楽しい食事風景を見ることができました。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	天然温泉が24時間対応の入浴支援が続けられています。仲の良い2人での入浴、夜間入浴など利用者の希望に添えるよう支援されています。なかには併設のケアハウス大浴場に出掛ける利用者もおり楽しんでいるようです。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活の張り合いを維持するため、日常的なかで役割分担を持ってもらうようにしており、調理、食器洗い、配膳、中庭のプランター菜園など思い思いの役割ができつつあります。「何か手伝うことはないかい・・・」などの問い掛けも聞かれるようになりました。		
25	61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気によりますが、日常的な散歩や買物、また、年に数回のバス遠足が行なわれて利用者の楽しみのとなっています。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	現在、昼夜を問わず外出しようとする利用者があり、失踪やほかの利用者を誘っての行動など対応に苦慮し、家族の依頼もあり、事業者及び管理者は鍵を掛けることの弊害を理解しつつも、日中も施錠をしています。	○	ホーム側の苦慮は十分に理解できますが、利用者の閉塞感やほかの家族に与える印象などを考慮され、利用者の安全を確保しながら、鍵を掛けない工夫や試行が求められ、その取り組みを期待します。

苫小牧市 グループホーム のどか

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホーム内は、スプリンクラーの完備や非常食の備えがあります。また、年に防災訓練を定期的に行なっており、地域の住民の方にも参加を求めるの働き掛けも行なっていますが、人手が少ない夜間の対応には不安が残ります。	○	緊急の場合、併設の施設からの応援も得ることとしていますが、人手の少ない夜間を想定した避難訓練などの災害対策は特に重要と思慮し、万全の取り組みを期待します。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	スタッフは、利用者の好みなどを把握しながら、希望に添うよう配慮しています。刻み食、パン食、麺類など利用者の状況も勘案して支援しており、法人の栄養士の指導も行き届いています。水分の摂取も日々の記録により習慣に応じた支援がされています。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ゆったりとした居間と食堂の間に設置された厨房は、両方を見ることができ機能的にとっても良いと感じました。浴室、トイレ、中庭を囲む回廊など居心地が良い共用空間がとっていますが、全体に乾燥が気になり湿度管理に工夫がいるようです。	○	湿度計は居間に1個設置されていますが、湿度計は居間だけではなく居室にも設置が必要であり、特に冬季間の乾燥には十分な対応の取り組みが期待されます。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の備品類はすべて利用者の持ち込みとなっており、利用者にあったベット、鏡台、壁に貼られた写真・賞状など、使い慣れた馴染みのものが並べられて安心の空間となっています。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。